

2018年8月8日
三井化学株式会社

こども霞が関見学デーに「田んぼの生き物」を出展 ～生物多様性に配慮した米作りを紹介～

三井化学株式会社（社長：淡輪 敏）と三井化学アグロ株式会社（社長：小澤 敏）は共同で、文部科学省をはじめとした省庁の連携で8月2日(木)に開催された「こども霞が関見学デー」に、「田んぼの生き物」を出展しました。



◆こども霞が関見学デー

日時：2018年8月2日(木)10:00～16:00

場所：文部科学省 2階共用ロビー

URL：http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kengaku/

◆当社ブースには600名の方々がご来場

三井化学アグロは、農薬を販売するだけでなく、JA、農業生産法人、農家や消費者の方々と水田に入り、生き物調査を体験しながら、持続可能な農業、食や生物多様性について考える機会を提供する活動を2012年から毎年実施しています。また、専門家と共に生き物調査の結果をまとめた「鑑定書」を発行し、多様な生き物が生息する水田で作られた米であることを証明し、その産地の米の付加価値向上にも貢献しています。

こども霞が関見学デーでは、都会ではなかなか見ることのできない「ミズカマキリ」「メダカ」などの田んぼの生き物を水槽やパネルで展示し、子供たちと一緒に観察し、生物多様性保全に配慮した米作りの重要性を紹介しました。子供たちや保護者からは「ゲンゴロウは虫なのに水中を上手に泳げることにびっくりした」、「田んぼにたくさんの生き物がいることを思い出した」、「この展示を見たくて子供と一緒に来た」といった声がありました。

三井化学グループは、今後もこうした活動を通じて、子供たちに食や、生物多様性について学ぶ機会を提供してまいります。



トウキョウダルマガエルやゲンゴロウを初めて見て喜ぶ子供たち



<本件に関するお問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部（TEL：03-6253-2100）